

けやきの家・地域おこしの拠点をめざして

小菅 恵子 (東京都ノーカーズコープ・けやき)

けやきは1995年6月に7名のヘルパー志望の女性たちが5万円ずつ出資して「24時間在宅介護を支援します」というキャッチフレーズで、東京都町田市に事業所を開設した。当時のメンバー7名のうち、介護福祉士1名、2級ヘルパー1名、3級ヘルパー1名、あとの4名のうち介護の体験があるのは2名、その他2名は全く未経験の状態であった。

「人や地域に役立つ仕事をおこし、みんなで経営する非営利の協同組合です。働く者同志が助け合い、ホームヘルパーの専門職として勉強し、技術の向上をはかりながら仕事をしていきます。」

「これからの地域のニーズに合わせ、行政や、医療機関とも連携をとりながら、よりよい活動をめざしていきます。」こんな文章がけやきのパンフレットの中身である。あれから1年3ヶ月を経て、けやきの組合員たちはパンフレットにある様に、働きながら勉強して、殆ど2級のヘルパーを取得している。現在、組合員は12名、アルバイト3名、15名が働いている。

けやきの事務所は3500世帯の居住者のいる団地の2階の10帖程のスペースを借りている。この小さな事務所に、様々な人達が電話をかけてくる、訪問もある。ヘルパー達も仕事の合間に寄ったり、休みの日にきたり、多い時は4、5人で話に花が咲く。悩みや相談をしたり、こんなたまり場のなところが、ヘルパーの明日の活力になっている。

みんなで考え、みんなで決める

けやきにはいつも1冊の大学ノートがおいてある。毎日の電話の内容や郵便、伝言、訪問者の用件、営業の報告、みんなに聞いてほしい事、会議の連絡、ケアの変更、様々なことを、この大学ノートで伝えている。そのノートを読み、事務所へ来るヘルパーもいる。このノートで情報を共有する。会議は月2回開いている。又、2ヶ月に一度位、けやき通信を出している。現在7号まで発行。家族からも原稿がよせられ、楽しみにして下さる。

活動の中味は、ケアは勿論のこと、家族の悩みの相談相手、利用者にあった介護用品の紹介や提供、車椅子などの貸出し、ケア先で使わなくなったベットなどを他のケア先に提供したり、様々なお世話をしている。その他に地域の敬老会や夏まつりへの参加、有料老人ホームへの藤田はじめのパンと愛彩豆腐の販売、ミニ講演会と介護用品の展示会なども取組んでいる。こんな活動も、みんなで考え、みんなで決めて続けている。こんな活動の中からはけやきのファンを増やし、新しいつながりをつくり、仕事の拡大にもつながっていくと思っている。そして、これこそ、未来(?)の高齢者協同組合なのではと思っている。

課題を夢につなげて

そんなけやきが今、一番悩んでいる事が、ヘルパーの身分の保障である。日本全体が在宅ヘルパーの身分保障をしきれていない現状であるが、け

やきも例外でなく、あくまでも時給のパート労働なのである。有給休暇もなく、仕事の量も、不安定の要素がまだまだ多い。今後の大きな課題がここにある。こんな重い課題を背負いつつ、なぜ元気なのだろう。それは「夢」があるからだと思う。

けやきは今年度の事業として、事務所兼、宅老所兼、保育所兼、高齢者のたまり場の出来る4LDK位の「けやきの家」をさがしている。出来るだけ家賃が安くて、車も2台位駐車出来るような、出来れば庭もある「けやきの家」である。

介護の仕事をはじめから、この仕事の必要性を思い知らされているが在宅ケアだけでは家族を支えきれない一面もあり、家族の負担の軽減と、利用者の介護の継続性などを考えて、ショートやデイのサービスとも連携した機能をもつ宅老所を考えている。又、けやきでは少しずつではあるが、若いヘルパーの参加も出てきている。若いヘルパー達の悩みが保育である。保育をすることで将来の在宅ケアの担い手としての若いヘルパーの参加も可能になるのではないだろうか。そしてこの「けやきの家」を高齢者協同組合の皆さんと育ててゆきたいのである。

大きな交流の輪が

今年の春、「豊かな高齢期の為の井戸端会議とフリーマーケット」というイベントを企画した。当日は生憎の雨降りにもかかわらず、50人程の人々がきてくれた。井戸端会議に参加された60代、70代の方は、その後あちこちで「けやき」の宣伝をして下さっているという。当日の会場はけやきの組合員のSさん宅であったが、彼女自身、子どもたち4人が巣立ってしまって、夫婦2人だけになった淋しい心情のとき、「けやき」の活動を知って、私にも出来ることがありそうと参加し、その後、生き生きと活動しはじめた人なのである。このイベントもSさんの発案なのである。そしてその当日、おむかいのご主人は自宅の駐車場を提供して下さい、お隣りの奥さんは、故郷のお母さんが丹精こめてつくった奈良漬と一緒に売り、売り上げをカンパして下さい、近くの農

家のおばさんがとりたてのホーレン草を下さったり、知り合いの農家の方がけやきのいい値で売ってよいかとネギを80束位出してくれたり、豆腐やパンと一緒に沢山の人の手助けで、けやきならではの大きな交流が出来た。

地域おこしへ

そんな中から地域の生きがいを求めている沢山の高齢者が「けやき」を媒体として、助け合えるような地域おこしが出来るのではないだろうかと思いはじめている。庭に季節の花を植えたり、快適な住みごちを工夫したりする様に、その地域の高齢者のニーズをキャッチして、高齢者にやさしい地域づくりを考えてみてはどうだろうか。空地があれば春はポピー、秋はコスモスを植え、町全体の風景が人の心をいやすような、そんな地域おこしも楽しいのではないだろうか。

私は人生の最後までこの町で暮らしたい。けれどもひょっとして人の手をかりなければならなくなったらこの町の、いつも元気な笑い声の聞こえる「けやきの家」に相談しよう。そんな安心があれば、この町の人は最後まで元気でいられるかもしれない。そんな地域おこしの拠点に「けやきの家」になればと思うのである。

「けやき」の仕事は、私の人生を大きく変えた。人生の後半で思ってもみなかった沢山の人達と出会えた。一歩ふみ出すことで誰にでも出来る仕事だと思う。こわがっている人がいたら、背中をそっと押してあげたい。そして私は「高齢者協同組合」という新たな生きがいもつかむことができた。けやきの夢を実現しながら、さらに人生を豊かにしたい。